

# Osaka Metro まちさんぽ

天王寺駅

90分  
コース

御堂筋線・谷町線 天王寺駅

四天王寺門前町に開けた天王寺村

## 真田幸村最期の地も 芭蕉絶唱の地も

江戸時代、四天王寺の門前町と周辺の集落をあわせて天王寺村が形成されました。大坂夏の陣の天王寺の戦いで真田幸村軍と徳川軍が激突し、幸村があえなく討死しました。また、元禄の頃には大坂の海に沈む夕陽を見下ろす料亭で、芭蕉が絶唱の句を吟じました。



スタート駅	約 90 分	ゴール駅
御堂筋線 天王寺駅 ⑯号出口	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 天王寺公園</li> <li>2 大阪市立美術館</li> <li>3 茶白山・河底池</li> <li>4 一心寺</li> <li>5 合邦辻間庵堂</li> <li>6 安居神社</li> <li>7 清水寺</li> <li>8 浮瀬亭跡 (大阪星光学院内)</li> <li>9 (タイガース神社)</li> <li>10 愛染堂勝鬃院</li> </ol>	谷町線 四天王寺前夕陽ヶ丘駅

天王寺はミナミ地区からさらに南にある大阪の玄関口。かつては天王寺 蕪で知られた農村地帯で、古来、奈良や泉南、紀州へ向かう街道筋が通じていました。住宅地として開発されたのは明治の末期からで、いまは奈良や和歌山へ向かう鉄道の拠点になっています。



天王寺駅  
90分  
コース

# Osaka Metro まちさんぽ

御堂筋線・谷町線 天王寺駅

四天王寺門前町に開けた天王寺村

## 真田幸村最期の地も芭蕉絶唱の地も

江戸時代、四天王寺の門前町と周辺の集落をあわせて天王寺村が形成されました。大坂夏の陣の天王寺の戦いで真田幸村軍と徳川軍が激突し、幸村があえなく討死しました。また、元禄の頃には大坂の海に沈む夕陽を見下ろす料亭で、芭蕉が絶唱の句を吟じました。

スタート駅

約 90 分

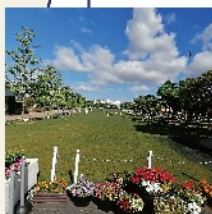
ゴール駅

### 御堂筋線・谷町線天王寺駅⑬号出口

### 谷町線四天王寺前夕陽ヶ丘駅

#### 1 天王寺・天王寺公園

このあたりの集落は四天王寺の門前町が形成されたのがはじめです。天王寺とは四天王寺の略称で平安時代から呼ばれてきました。明治36年(1903)に一帶の原野を利用して第5回内国勸業博覧会が開催され、わが国初の外国館の展示や電気装飾などで約530万人もの入場者であふれました。終了後に会場跡地の西側半分が新世界に、東側半分が天王寺公園として整備され、大正4年(1915)に公園内に動物園が開園しました。中之島にあった黒田藩蔵屋敷長屋門が移設されています。



#### 2 大阪市立美術館・慶沢園

市立美術館はもと住友家本邸地で、大正10年(1921)に美術館建設を条件に大阪に寄贈されました。現在、約8500件を収蔵し、東洋美術の宝庫といわれています。慶沢園は本邸の庭園で、明治41年(1908)小川治兵衛が作庭した純日本風の林泉回遊式庭園です。(ともに入場料必要)



#### 3 茶臼山・河底池

ここは和氣清麻呂が延暦7年(788)に河内湖の水を大坂湾へ通そうとした工事跡だという説があります。河底池には和気橋が架かっています。茶臼山は大坂冬の陣では徳川家康の本陣になり、夏の陣では真田幸村が陣を構えました。天王寺の戦いで幸村は徳川軍を激しく攻めましたが、近くの安居神社であえなく討死しました。

#### 4 一心寺

文治元年(1185)に法然上人が開創しました。後白河法皇も訪れて夕陽を拝む日想観を修行したと伝えられています。大坂冬の陣で飲酒のために不覚をとった本多忠朝の墓があり、「禁酒の神」として多くの参拝者があります。仁王門下が天王寺七坂のひとつである逢坂です。



#### 5 合邦辻閻魔堂

かつてはここが西成郡と東生郡の境とされた安穩祈願のお堂です。俊徳丸の難病が治るといふ筋書きの名作浄瑠璃『撰州合邦辻』の舞台で、いまでも病氣平癒を祈願する人が絶えません。



#### 6 安居神社

創建は聖徳太子の頃とされる古社です。境内に大坂夏の陣で討死した真田幸村の像と「真田幸村戦死跡の碑」が並んでいます。天王寺七名水のひとつ「かんしづめ(痛鎮め)の井」の遺跡があり、北側の天神坂にはかつての湧き水の様子が再現されています。



#### 7 清水寺

寛永17年(1640)に京の清水寺を勧請して建てられ、大阪市内で唯一の自然の滝とされる「玉出の滝」や夕陽を拝観する舞台もあります。寺院周辺の伶人町は四天王寺舞楽を演じる楽人が住んでいたところで、国歌『君が代』の作曲者・林廣守の出身地です。

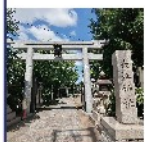


#### 8 浮瀨亭跡(大阪星光学院内)

江戸時代から明治中頃までここにあった料亭が「浮瀨亭」で、多くの文人墨客が訪れています。元禄7年(1694)松尾芭蕉が句会を開いて「此道を行く人なしに秋の暮」「此秋は何で年よる雲に鳥」と詠じたのち、御堂筋の花屋の座敷で客死しました。「浮瀨俳跡蕉蕪園」は大阪星光学院内にあり、観覧には事前の予約が必要です(06-6771-0737)。愛染坂に説明板があります。

#### 9 大江神社(タイガース神社)

太古の昔はこのあたりまで大坂の海が迫っていて、大江という地名はその名残です。夕陽が見事な景勝地で、芭蕉の「あかあかと日はつれなくも秋の風」の句碑があります。狛虎があるのでタイガースファンの聖地となっています。鳥居のそばに愛染坂があります。



#### 10 愛染堂勝鬘院

四天王寺の別院で、推古元年(593)に聖徳太子が開いた四天王寺施薬院が発祥です。本堂には勝鬘夫人の像が祀られていましたが、現在は愛染明王が本尊です。慶長2年(1597)に豊臣秀吉が再建した多宝塔は大阪市内最古の木造建造物です。例年6月30日に宵宮から始まる愛染祭は大坂の夏祭りの先駆けとして知られ、また、境内には映画『愛染かつら』のモデルになった縁結びの霊木があります。霊水とされる手水は自然の湧き水です。



文中の「おおさか」表記には、一般呼称や明治以降については「大阪」、江戸時代以前については「大坂」を使っています。なお、掲載している情報は2023年2月時点のものです。内容は変更されている場合があります。

発行：Osaka Metro

協力：一般社団法人大阪あそ歩委員会 (お問い合わせ先)大阪あそ歩 info@osaka-asobo.jp

後援：歴史街道推進協議会

このコースや他のコースの〈ガイド付きまち歩き〉については、下記の「大阪あそ歩」のホームページをご覧ください。

<https://www.osaka-asobo.jp> または  で検索

#### ご注意

※まち歩きには歩きやすい服装で、足下や車などの往来に十分注意し、事故のないように各自で責任をもって行動してください。  
※プライバシーにかかわる場所での写真撮影や大声での談笑はご遠慮ください。

#### ご案内

※駅スタンプは駅長室付近に設置しています。参加記念にぜひ押印してください。

#### 駅スタンプ押印欄



毎月第1金曜日発行